

福岡県飯塚市で開催中の飯塚国際車いすテニス大会は、延べ約2千人のボランティアが運営を支えている。その一人がラケットの「ガット張り職人」として選手の信頼を集めている同市内のスポート用品店経営、高野義治さん(65)だ。会場内に作業場を設け、14年間ラケットのメンテナンスを続けている。

ガット張り 職人の気概

高野さんはこの道37年の大ベテランだが、テニスの経験はない。中学時代から陸上競技に明け暮れ、福岡大付属大濠高(福岡市)で全国高校駅伝を制覇。中央大時代は、箱根駅伝で区間賞を獲得した経歴も持つ。「ガット張りも1本ずつコツコツと作業した先にゴールがある。長距離選手の私の性に合うんでしょう」と笑う。

28歳で店を構え、特色を出すために当時スポーツ用品店では珍しかったガット張りを始めた。以来、県内外から持ち込まれた約3万5千本のラケットのガットを張り替えてきた。14年前に大会事務局からボランティアの依頼が来た際は、地元の大大会に携われるうれしさから快諾。日当はなく、1本千円の作業代金も大

飯塚国際車いすテニス ボランティア・高野さん 会場で修理、選手支える

会に寄付している。

近年は大会に集まる世界のトップ選手からも「グッドジョブ(いい出来だ)」と言葉をもらうようになった。「今でもこの大会は私の腕を磨く場。体が動く限り、ボランティアを続けますよ」と、手を動かしながら話した。

◇ ◇
大会最終日の2日、男子シングルスマーンの決勝戦がインターネットで生中継される。午前10時から予定で視聴無料。

障害者スポーツの振興に取り組む東京のNPO法人「STAND」とNECのタイアップ企画で、ネット中継サイト「モバチュウ」で配信する。アドレスは<http://www.jp-project.jp/nec-stand/wt/fo>
/2013/ (鶴善行)



「大会は自分の腕を磨く場」と話し、ガットを張り替える高野義治さん